【モジュールI:大学教育に関する5つの物語】行動計画表:自己評価用チェックリスト(最終掲示板への投稿時に利用します)

【ステップI】各物語での学びに基づく振り返り

● モジュールI各物語の掲示板へ投稿した内容を踏まえ、以下の空欄へ入力してください。

● 医学科 6 年生に対する放射線科(画像診断科)の 6 週間の選択実習プログラム

(★6週間の実習全体に関与するものと、※私が半日だけ自由にやらせていただく時間ができたため、実習期間中に1回完結型のワークショップとして行うもの、に分けて記載した。★の方が6週間全体に関わるため、影響力は大きいですが、何らかの変更を加える場合、多数の上司の許可が必要で自由度は低い。)

物語	テーマ	項目	質問	回答
物語1 『教材設計マ ニュアル』をめ ぐる物語(講 義と期末試験 不要論)	大学教育に講義と 定期試験は必要か 否か	自身の行動の 振り返り	物語1掲示板への投稿を踏まえ、これまでのあなたの <u>行動の改善すべき点</u> を書いてください。	※知識・情報の一方向の伝達という意味での講義を辞める
		振り返りを踏 まえた行動計 画	物語1掲示板への投稿と振り返り結果を踏 まえ、 <u>今後取るべき行動</u> を書いてください。	★事前テスト・事後テストを導入する(学生の成績とは関連なく、私たちの実習が効果を出しているか、という測定。実際の医療現場に即して、電子カルテの画面上で2分以内に患者さんのCT・MRI画像で診断できるか、みたいな問題を20問程度出す。同一レベルの類似問題を用い、前後で正答率の変化を見る) 事後の個人ワークをするためのGoogleフォームの設置 ★いつでも何度でも挑戦できる画像解剖学の試験(Googleフォーム)の設置
物語2	3つの指針(アドミ	自身の行動の	物語2掲示板への投稿を踏まえ、これまで	★※医学生の卒業後・実習後のパフォーマンスを

<p>出入口と成長プロセスの設計(3つのポリシーで何が変わったか)</p>	<p>ツシヨン・カリキュラム・ディプロマポリシー)の公表は大学教育の改善につながるか否か</p>	<p>振り返り</p>	<p>のあなたの行動の改善すべき点を書いてください。</p>	<p>意識する(カークパトリックレベル 3&4) ★※知的技能のみならず、学ぶ力や倫理観なども、学習者に責任を押しつけず伸ばすことを意識する</p>
		<p>振り返りを踏まえた行動計画</p>	<p>物語2掲示板への投稿と振り返り結果を踏まえ、今後取るべき行動を書いてください。</p>	<p>★当科の実習の終了時の目標を Google classroom 上で提案し、学生から了承してもらう ※学ぶ力を意識するワークショップの導入</p>
<p>物語3 ストーリー中心型カリキュラムの実践(基礎からの積み上げを見直す)</p>	<p>基礎からの積み上げはユニバーサル時代の大学に有効か否か</p>	<p>自身の行動の振り返り</p>	<p>物語3掲示板への投稿を踏まえ、これまでのあなたの行動の改善すべき点を書いてください。</p>	<p>★※基礎からの積み上げが必須だという偏見に捕られない 全ての知識を網羅すべきという考えから卒業する</p>
		<p>振り返りを踏まえた行動計画</p>	<p>物語3掲示板への投稿と振り返り結果を踏まえ、今後取るべき行動を書いてください。</p>	<p>※既に教材にはストーリーをいくつか入れているので、充実させ、より実践的で魅力的な学びにする(医師になって知識をこう使う、と見せて、考えさせる)</p>
<p>物語4 『学習設計マニュアル』で学生の自立を促す(教えない教員になる)</p>	<p>次世代の大学には教えない教員と自ら学ぶ学生が不可欠だという主張</p>	<p>自身の行動の振り返り</p>	<p>物語4掲示板への投稿を踏まえ、これまでのあなたの行動の改善すべき点を書いてください。</p>	<p>★※学生の「学ぶ力」も伸ばすことを意識する</p>
		<p>振り返りを踏まえた行動計画</p>	<p>物語4掲示板への投稿と振り返り結果を踏まえ、今後取るべき行動を書いてください。</p>	<p>※★実習中に「学ぶ力」を意識するワークショップを組み込んでもらえるか交渉する (今回の学生実習と直接は関係ないが)オンライン・プライベートで開催している「学習設計マニュアル学習会」を続ける</p>

物語5 ミネルヴァ大 学の衝撃と10 年先行してい た GSIS	次世代の大学づくりに「ミネルバ大学」から学べることは多くあるという主張	自身の行動の振り返り	物語5掲示板への投稿を踏まえ、これまでのあなたの行動の改善すべき点を書いてください。	※講義時間の1割以上話さない
		振り返りを踏まえた行動計画	物語5掲示板への投稿と振り返り結果を踏まえ、今後取るべき行動を書いてください。	※事前学習資料を充実させる(動画の撮影も含めて) ※自分のレクチャーを録画し、何割話しているか測定してみる

【ステップ2】各物語での学びに基づく行動計画表の作成

ステップ1で入力した内容を踏まえ、次に来る時代の大学教員になるために、あなたはこれから何をしますか？ 行動計画を立ててみましょう。すぐやること、今年度中にやること、近い将来にやることなど、複数の期限を設け、何をやるか、それが必要だと思った理由は何かをまとめた表として作成・提出してください（書式自由、サンプルはありません）

期限	何をやるのか	それが必要だと思った理由はなにか
継続すること	★Google classroom を用いた情報提供やディスカッション	<p>実習時間外の学びを促進・支援するため 実習では直接扱いにくい内容を取り上げる(自費検診やマンモグラフィのデンスブレスト、CT 読影レポートの見逃し問題、など) 学生—教員間の心理的なハードルを下げる 個々の学生の興味・関心に応えながら、隙間時間にスマホでネットサーフィンをする世代の生活に溶け込みやすいスタイルでの情報提供とディスカッション</p>
	<p>★実習終了時の到達目標の明確化と Google classroom で提示し、了承かどうか訊いてみる ★匿名の即時フィードバック or 質問フォームの設置</p>	<p>ゴールを明確にし、適切かどうかきちんと尋ねてみる。またそこから学生自身に今週の目標など立てさせて、目標の細分化や、主体的な学習態度を促す ARCS モデルで言うところの C に働きかける</p>
2020年 1月6日 (学生実習 開始前日)	<p>★いつでも何度でも挑戦できる画像解剖学の試験 (Google フォーム)の設置 ※学び方ワークショップをカリキュラムに組み込む交渉 3時間で事前課題+ディスカッション+事後課題のセットを展開してみる(テーマは5つくらいの中から学生に選択させる。画像診断コメントの書き方、Pubmed の検索の仕方、</p>	<p>言語情報のテストは各自で何度でもやってもらえるようにする ※医学部学生に「学び方」を意識してもらうため。また、当科の画像診断学の講義・実習ではカバーしきれないが、研修医になると大事な学習内容の落ち穂拾い。また、反転授業を取り入れて、学生・スタッフともにその重要性や旧来の講義形式の非効率性に気づいてもらうため</p>

	<p>医師の仕事しながら学び続けるには、など) →できれば学生に「有吉先生のワークショップは本当に良かった、増やして欲しい」とキーパーソンの上司に言って貰う</p> <p>★事前テスト・事後テストの問題を用意する</p>	<p>自分の医局内での発言権を高める、ワークショップの時間を増やしてもらうため</p> <p>私たちの実習の質を評価するため</p>
<p>1月～7月 (実習中)</p>	<p>★実際の実習生に事前・事後テストを行う (実際の医療現場に即して、電子カルテの画面上で2分以内に患者さんのCT・MRI画像で診断できるか、みたいな問題を20問程度出す。同一疾患の類似問題を用い、前後で正答率の変化を見る)</p>	<p>私たちの実習の質を評価するため</p>
<p>5月～</p>	<p>★オンライン学習素材の提供(毎日スマホ or PC で解答)</p>	<p>本番(現実)に即して、画像をスクロールできる状況で問題に解答する訓練を、毎日隙間時間を活用して自主的にやってもらうため</p>